

高齢者の生活を支える街づくりを



山口 恵子
(公明党)

◆生活を支える移動手段

問 高齢運転者による事故が増加している。高齢での運転はリスクが伴うものの交通の不便さから運転免許を手放せない事情がある。地域振興バスやタクシー利用料金の助成は十分ではない。免許を返納するには安心して暮らせるための対策が必要だ。対応は。

答 地域課題の第一位が高齢者の交通手段の確保で深刻な状況である。地域振興バスは、バス停まで遠いなど課題があり、またタクシー利用料金の助成は利用状況に課題がある。今後県や市、地域住民の取り組みなど総合的に検討していく。

◆働きやすい環境づくりを

問 正社員を望むも非正規雇用で働いている人が多く、過酷な労働を強いられているケースがあるが現状は。

答 県内では雇用者に占める非正規の割合は33.8%で上昇が続いている。待遇面については県の実態調査で「賃金・収

入」面で約半数が不満を抱えている。国では、特に30代以下の非正規雇用の割合が高く「同一労働、同一賃金」の実現に取り組んでいる。

問 子育てや介護に携わる人、障がいのある方には働きやすい環境の整備を望むが「テレワーク事業」の状況は。

答 本市では「テレワーク」を通じ女性等の雇用機会を創出し就労支援や求職者を対象にスキルアップを目指したセミナーを開催し支援している。

◆その他の質問事項
母子保健について、奨学金制度について質問した。



市街地を走る地域振興バス

移住・定住施策で市に活力を



横沢 英一
(新政局)

◆地域に活力を

問 市内の人口増の特徴と魅力あるH・Pに改修を。

答 20・30歳代の転入者が最も多く、子育て世代や若者の転入が増加した。移住・定住等に関する情報はホームページを独自のサイトにし、新年度からリニューアルしたい。

問 ワイン大学生数とクラウド・ファンディング内容は。

答 受講生は26名、11名が市内で就農し、うち2名が来年度ワイナリーを計画している。また、クラウド・ファンディングを申し込むのに経費として20万円程度かかるため、うち半分を補助するものである。

◆安心・安全を考える

問 木造で軒が接する地域を準防火地域区域等の指定と、女性団員の募集の考えは。

答 準防火地域は隣地の火災から延焼を防ぐため、屋根、外壁、軒裏、開口部の防火性能を上げるなど、市全域について見直しの研究をしたい。就業構造の変化から、団員確

保は大変厳しい。女性団員については、消防音楽隊に18名所属し活動している。危険が伴うとの意識が強いが、後方支援や予防消防等で加入促進に向けPRをしていきたい。

◆高齢化社会で元気にいきる
問 老人クラブの活動促進に生活支援コーディネーターの役割と空き家の活用を。

答 29年度から配置する生活支援コーディネーターが地域での支えあい事業の取り組みを進めていく中で、老人クラブの活動支援を図っていく。また、地域の高齢者集いの場として、空き家の活用を積極的に検討していく。



ワイン大学ぶどう栽培学習